




こんにちは、 **齋賀 一** さん

[マイページ](#) | [ログアウト](#)

 [655cap](#) |  [0Pt](#)

[☐ ガイドライン・診断基準へ戻る](#)

クリップする 

 ツイート  2



 1

定期的なマンモグラフィ検診の開始年齢を45歳に引き上げ 米国がん協会が12年ぶりにガイドライン改訂

[ガイドライン・診断基準](#) | 2015.10.23



米国がん協会（ACS）は10月20日、乳がんリスクが平均レベルの女性に対する乳がん検診の改訂GLをJAMA（[2015;314:1599-1614](#)）で公表した。ACSによる同GLの改訂は2003年以来、12年ぶり。最も注目される改訂ポイントは、年1回の定期的なマンモグラフィ検診の開始年齢が40歳から45歳に引き上げられた点だ。40歳代に対する乳がん検診の是非をめぐるっては、2009年に米国予防医療サービス対策委員会（USPSTF）が「40～49歳の女性には定期的なマンモグラフィ検診を実施すべきでない」との勧告を発表。これに対し、ACSや米国放射線学会（ACR）、米国産科婦人科学会（ACOG）が否定的な見解を示すなど、米国内でも関連学会・機関によって異なる方針が示されていた（[関連記事](#)）。しかし、今回の改訂によってACSとUSPSTFの推奨内容の一貫性が高まる格好となった。



(©Monkey Business/Getty Images)

この記事はおよそ2分で読むことができます

RCTや観察研究の長期追跡データが蓄積

今回の改訂は、前GLが発表された2003年以降に乳がん検診の有用性を検討したランダム化比較試験（RCT）や住民ベースの検診プログラムのデータを用いた観察研究の長期追跡データが蓄積されたことを受けたもの。GL策定に先立ち米・Duke Clinical Research InstituteのEvan R. Myers氏らがこれらのエビデンスについてシステマチックレビューを実施（[2015;314:1615-1634](#)）。エビデンスの質とともに、検診による利

益と害のバランスを考慮した推奨項目がまとめられた。

なお、GLは乳がんリスクが「平均」レベルの女性を対象とした検診に関するもの。具体的には「乳がんの既往歴がなく、BRCAなど乳がんリスクの上昇に関連する遺伝子変異や若年期に胸部の放射線治療を受けた経験がない女性」と定義されている。

本人の希望や臨床判断により従来通り40歳からも選択可能

改訂で注目されるのは、年1回の定期的なマンモグラフィ検診の開始年齢が40歳から45歳に引き上げられた点。これについて、ガイドライン作成グループ（GDG）は「40～54歳における乳がんによる負担について慎重に検討した結果、40～45歳では（46～54歳に比べて）負担の程度が低い一方で、偽陽性や過剰診断・治療など有害アウトカムリスクは高かった」と説明している。

ただし、個々の女性の希望や臨床判断により従来通り40歳から検診を受けることも選択肢として残されている。また、55歳以上では検診の頻度を1年ごとから2年ごとに減らすことが推奨されているが、これについても個別の判断が可能とされている。

さらに、何歳まで定期的な検診を受けるべきかに関しては、「全般的な健康状態が良好で、平均余命が10年以上の女性は引き続き検診を受けるべき」と記されている。

この他、前GLで推奨されていた医師による定期的な視触診は、改訂に伴い「年齢を問わず推奨しない」とされた。これについては「視触診が40歳超あるいは40歳未満の女性における乳がんの発見に寄与するとの明確なエビデンスがない」と説明している。

なお、GLでは全ての女性に対し、自身の病歴や家族歴を正しく認識した上でそれを医師に伝えること、また医師には女性のリスクプロファイルを把握しておくことを勧めている。また、女性の乳がんリスクが平均レベルと考えられる場合には、40歳前後でスクリーニングについて話し合うことを推奨。さらに、乳がんの危険因子や検診に伴う害および限界、ベネフィットに関する情報を女性に提供することの重要性を強調している。

45～54歳ではACSとUSPSTFで大きな隔たり

この改訂GLについて、米・Harvard Medical SchoolのNancy L. Keating氏は同誌の付随論評（[2015;314:1569-1571](#)）で「主要な乳がん検診GLであるACSとUSPSTFのGLのいずれもが、45歳未満の平均リスクの女性ではマンモグラフィ検診の害はベネフィットを上回るとの点で見解が一致し、従来と比べて2つのGLの一貫性が高まった」と解説。また、平均余命が10年未満の高齢女性に対しては定期的な乳がん検診は不要とした推奨については「実年齢よりも機能的年齢がより重要とする近年の知見との整合性がとれている」と評価を示している。


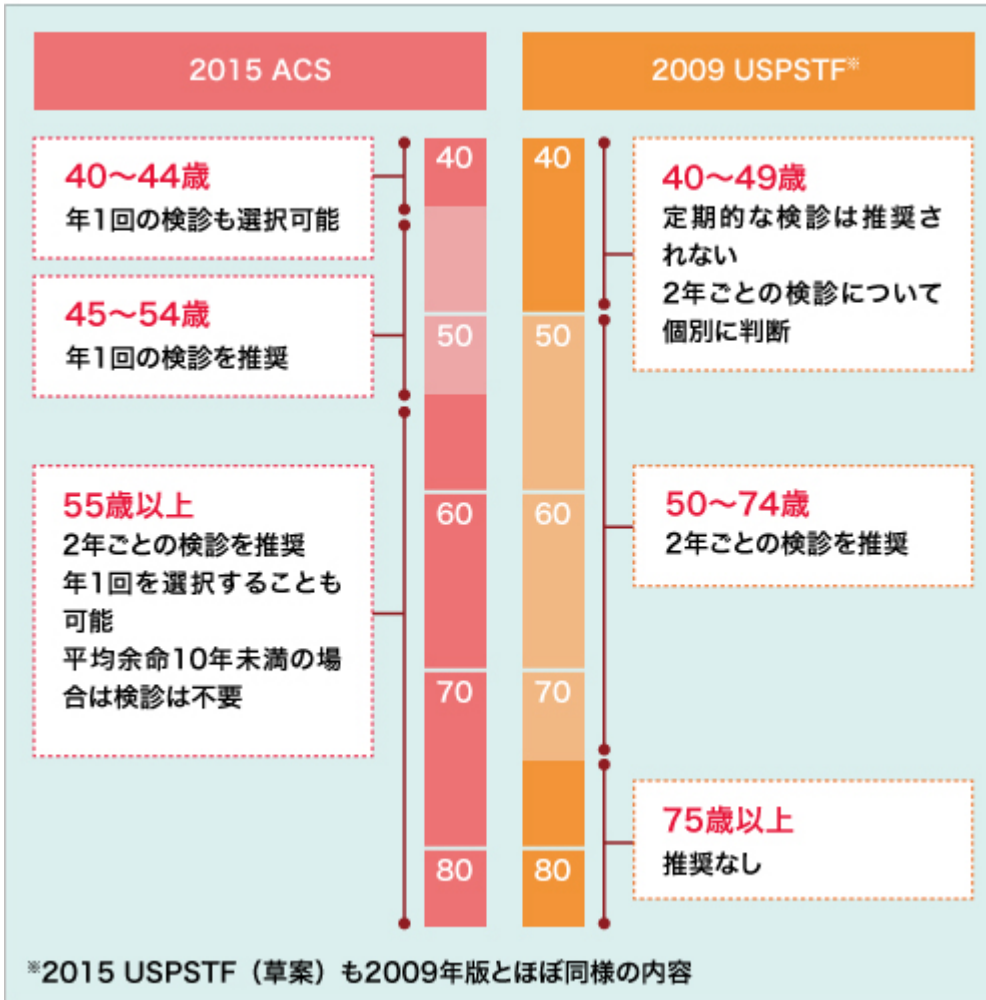
一方で、45～54歳の女性に対する乳がん検診に関しては、ACSでは年1回のマンモグラフィ検診を推奨しているが、USPSTFは45～49歳では検診は不要、50～54歳では2年に1回とするなど、一致していないこと（）を指摘。同年齢層では選択が難しいと述べている。

図. 乳がんのマンモグラフィ検診に関する推奨の違い (ACS と USPSTF)



(出典: JAMA 2015; 314: 1658)

その上で、同氏は「いずれのGLも検診を受けるかどうかの判断は個人の価値観や嗜好とともに、乳がんリスクを考慮した上で個別になされるべきとの考えが主軸となっている」と説明。40歳以上の女性の「私はマンモグラフィ検診を受けるべきなのか？」という問いに対する唯一の正解はなく、女性が自身の乳がんリスクを把握し、何に価値を置いて何を希望するのかを医師に伝え、インフォームドディシジョンが行えるようにすることが最も重要だと述べている。

(岬りり子)

診療科

産婦人科・婦人科 がん

疾患・領域・ジャンル

その他国際学会 その他海外公的機関 ガイドライン・声明 乳がん 予防医学 健診・検診

コメント一覧

新着順

人気順

US併用検診など他の方法も検討すべき時期に来ていると思います。

共感する 0

共感しない 0

17:17 2015.10.23 | aki

興味深いです

共感する 1

共感しない 0

16:49 2015.10.23 | くわちん

従来より、米国では、日本より、検診に否定的な意見が多いです。

共感する 1

共感しない 0

16:44 2015.10.23 | なべしん

やはり検診は万能ではなく限界がある。

共感する 1

共感しない 0

16:39 2015.10.23 | ohmygod

日本の場合も調べた方がいいですよね。

共感する 1

共感しない 0

16:31 2015.10.23 | yshiba

マンモグラフィーと、死亡率減少効果との関係はどうでしょうか。

共感する 1

共感しない 0

16:21 2015.10.23 | なべしん

乳癌の検診受診率が高まるといいですね。

共感する 0

共感しない 0

16:20 2015.10.23 | シオミン

この短期間でも、実際に検診率が上がったと聞きました。

共感する 1

共感しない 0

16:16 2015.10.23 | おこ

検診が高まるとよいと思います。

共感する 1

共感しない 0

16:05 2015.10.23 | kazu0417

読影医の資格があってもマンモグラフィーの読影力の優劣がありそう、どちらかというところオーバー・ダイアグノーシスの傾向があるようだけど

共感する 1

共感しない 0

15:58 2015.10.23 | totty

[1](#) [2](#)

[<先頭へ](#) [<前へ](#)

[次へ>](#) [最後へ>](#)



Comme

この記事を読んでいるあなたへのおすすめ



骨粗鬆症による骨折が増加し続ける日本、その背景とは
2015年10月16日



Caサプリメントに骨折予防効果なし
2015年10月16日



「死ぬまで射精可能」は男子で4割、女子で2割
2015年10月16日



線維筋痛症の闘病体験を基に作詞して楽曲を制作
2015年10月16日

フォーカス記事

医療情報サイト掲載のお役立ちコンテンツをご紹介します

2015.09.29[PR]



[セレクト記事](#)

[設定変更](#)

急増する外国人患者，受け入れの問題とは？

2015.10.22

たったの5分で分かる！DPP-4阻害薬の特徴と好適患者

2015.08.27[PR]



化血研のインフルエンザワクチン，出荷自粛を解除へ

2015.10.22

超高齢社会でますます重要性増す適切な排尿ケア

2015.10.21

< 1 > 個人輸入：偽造医薬品だけにとどまらない危険性

2015.10.21

便秘薬使用に伴う高Mg血症で3年に死亡4例

2015.10.20

関連記事

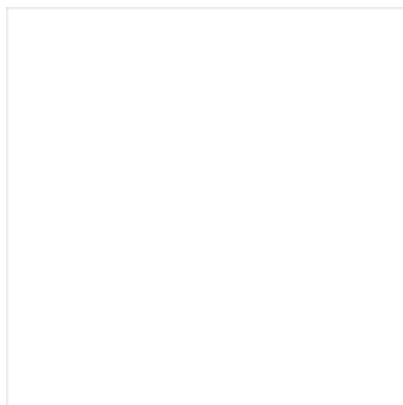
非メラノーマ皮膚がん予防に経口ニコチンアミドが有望 2015.10.23

がん幹細胞の機能を抑制し再発を予防 2015.10.22

心房細動治療の質の向上を目指したロードマップ示す 2015.10.22

化血研のインフルエンザワクチン, 出荷自粛を解除へ 2015.10.22

SGLT2阻害薬の急性腎障害に関する安全性情報 2015.10.20



お知らせ

希少疾患・難治性疾患コーナーを新設しました。

2015.10.08

クリップ記事

[クリップ一覧](#)

✓ 地中海食のカロリー制限食に優れた乳がん初発予防効果を確認
2015.09.15

ランキング 2015.09.01~2015.09.30

[アクセス](#)

[注目](#)

- 1 糖尿病治療薬の新時代—EMPA-REG OUTCOME試験発表！
- 2 糖尿病薬で今世紀初の心血管イベント抑制効果, 死亡リスク低下も
- 3 「死ぬまで射精可能」は男子で4割, 女子で2割
- 4 NVAF患者に対するNOACの出血リスク比較成績が発表

希少疾患・難治性疾患

副作用・相互作用を
まとめて検索

安心処方 infobox



ウェブ学会速報

著者インタビュー 澤田めぐみ氏

「医師に聞けないあんな疑問
医師が解きたいこんな誤解」



特別企画

サムス力適正使用のために
— エリア座談会 —

5 アルツハイマー病治療薬ドネペジルが骨粗鬆症治療に有用か

[アクセスランキング一覧](#) □



[ホーム](#) > [ニュース](#) > [2015年](#) > [ガイドライン・診断基準](#) > 定期的なマンモグラフィ検診の開始年齢を45歳に引き上げ



[ページの先頭へ](#)

ホーム

[ニュース](#)

[連載](#)

[学会情報](#)

[セミナー](#)

[医療経営](#)

[ライフ](#)

▶ [アクセスランキング](#)

▶ [ワンクリックアンケート](#)

▶ [ディテリング](#)

▶ [本サイトのご利用について](#)

▶ [プライバシーポリシー](#)

▶ [会社概要](#)

▶ [お問い合わせ](#)

▶ よくあるご質問

▶ MTRについて

Medical TribuneのSNS…



関連サイト…



Copyright © 2007- 2015 Medical Tribune, Inc. All rights reserved.